

「第7回“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	輝北キラキラ館運営協議会
日時	平成26年9月19日（金）18時から19時30分まで
場所	上平房公民館
参加者	輝北キラキラ館運営協議会（中村寛樹様外13名）
	市長、両副市長、市長公室長、輝北総合支所長、産業観光振興監、農林水産課長、輝北地域政策課長

1 「輝北キラキラ館」や輝北地域全体の特産品の開発に係る、作物選定から6次産業化に向けた取組へのアドバイスについて

提案：輝北地域には、スプレーギク等の特産品やゴボウなどの素材はあるものの、物産館で販売できるような加工食品としての特産品が乏しく感じる。

そこで、例えば大豆などの加工食品を販売できないか検討しているが、猿害などのことを考えると、作物の選定が重要であり、鳥獣害の少ない作物を選定し、会員所有の農地や遊休農地を活用した農産物の栽培を行いながら、特産品を作りたいと考えている。

については、作物の選定から6次産業化に向けた取組の方法について、行政からアドバイスをいただきたい。

回答：先ほどキラキラ館に両副市長と立ち寄ったが、一つ残念だったのが、福山の漬物等が色々置いてあった。輝北まで来て、福山の物を買わなくても、輝北の物を買えば良いのだが、そういう意味で今後色々な品揃えや工夫をしていかないといけないと感じた。輝北地域にはスプレーギクなどの素材はあるが、物産館で出せるような加工食品がない。最近では、猫も杓子も6次産業化ということで、どこの市町村の政策にも出てくるが、6次産業化は農家が主体となって事業を組み立て、農商工連携は商工業者等と対等に取り組んでいく方法である。

6次産業化については、ざっくりばらんに言うと失敗をなさいたい。輝北の特色のあるものを作ったとき、まずチャレンジして、失敗の中から学び、恐れずに進んでほしい。ただし、他の地域と差別化しないといけないので、それが輝北では何かということ、考える必要がある。

特に、鳥獣が食べない忌避作物、例えば、ショウガ、ウコン、梅など、そういったものを商品化すると良いと思う。中には、梅煎餅を作ったり、梅の種を加工するといったアイデアを持った人もいる。みなさんも5年間くらいのサイクルをもって考え、チャレンジしてほしい。また、来年3月には細山田に大隅加工技術拠点施設ができるので、そこで商品開発したものを、アンテナショップみたいな形でアンケート用の往復はがき等を付けて販売し、味、量、値段など消費者のニーズをモニターして改良していくのも一つの方法ではないかと思う。

もう一つは、物を売るだけでなく、キラキラ館をどんな形で展開していくか考えることが大切である。小さな拠点づくりという考え方があるが、本地域は高齢者が多いので、宅配をしながら福祉事業的な部分で安否確認をするなど、販売と組み合わせることで考えていけば、この地域で核になる施設になるのではないかと思う。

行政としては、6次産業化に係る色々な事業があり、商談会等も実施されてい

るので、そういう機会を使っていたきたいし、商品開発に当たっての補助や専門の方の技術指導などでお手伝いできるので、皆さんも目標を定めて実行していただきたい。茶、畜産、耕種、漬物、そういった物をミックスして面白いものができれば一步先に進めると思う。

回答：6次化と言えば、1次産業、2次産業、3次産業、足しても掛けても6になるから6次産業といたりするが、個人的には掛け算ではなく足し算だと考えている。基本となる1次産業の農業がゼロになったらこの公式は成り立たない。新しい作物等を見つけることも大切ではあるが、輝北には昔からの良いものも色々あるので見直すことも大事である。これまでは、対市場、対農協などの売り方があったが、農家だけで一から流通を勉強して販路を探すよりも、輝北地域には色々な業種の方がいらっしゃるので、そういう方々の得意な分野を活用、ネットワーク化し、一緒に考えていくことが大切である。例えば、先ほど銀杏の木を見たが、手つかずの木から実が落ちて、もったいないと思う人と、虫が来るから邪魔だと思う人がいて、人の考え方によって見方が変わる。椿でいうと、昔から実を集める仕組はあったが、昔ながらに髪の毛に使っていたものを、考え方によっては、椿油で天ぷらを揚げたりドレッシングを作るといった人もいる。

今度、細山田にできる加工技術拠点施設には販売部門や専門の先生たちも来るので、この施設もぜひ活用しながら、色々なアイデアを形にしていきたい。

回答：みなさん何を作ればよいか悩んでいると思うが、まずは、誰に売りたいか、誰に喜んでもらいたいかを考えればよいと思う。キラキラ館の強みは何かと考えたとき、横にファミリーマートがあり集客の支援をいただけることと、花という売り物があることだと思う。一方で、加工が少し弱いかなということと、野菜の棚を増やすには、年間の栽培計画を作る必要があると考えている。

キラキラ館としては、どのようなお客さんを想定しているのか聞いてみたい。どんな人が、どんなものを買っているか、アンケート等を取ったことがあるのか。

提案：アンケートはまだやっていないが、キラキラ館も4年目なので、ゆくゆくは実施したい。最近は何人リピーターも出てきたので、土日になったらキラキラ館に行くと言うような流れを作っていきたい。

当初、キラキラ館を始めたときは、店に置くものが少なく、市外の地域からも集めたが、漬物など「なんで鹿屋の物じゃないのか」と言われたこともある。最近は、加工品を作ろうという人もすこしずつ出てきた。

2 特産品を販売する「ミニ道の駅」の設置について

提案：空港のある霧島市から鹿屋市域に入り、鹿屋市街地までの間の国道504号には、大きなスーパーなどが無いため、北の玄関口として、地元の特産品や加工品などを販売する「ミニ道の駅」が必要であると考えている。

国交省指定の「道の駅」では採算が合わないと思うので、目玉商品や地元の珍しいものが手に入る「ミニ道の駅」を設置し、併せて「食を考える」「若者に魅力ある農業」について発信できるスペースになればと考えている。

また、場所については、校区公民館を有効利用し、地域活性化を図れないか、市長の意見を伺いたい。

回答：校区公民館を活用したいということであったが、制度上は、制限があるものの、地域の皆さんの公民館なので、地域の理解が得られれば、イベント時の一時的な利用などは可能と思われる。また、総合支所にも指示しているが、地域の空き家を利用して、月に1回の市や料理店等そういったものを開催すれば面白いと思う。さらに言えば、総合支所の施設も一部空いているので使えるかもしれない。公民館、空き家、総合支所などの有効活用という意味では可能性があるのでは、相談していただきたい。

また、私に言わせると、キラキラ館も道の駅である。今後これをどうしていきたいのか。ファミリーマートやAマートと差別化を図りつつ、キラキラ館が地域の拠点となって、高齢者に結びつけた事業展開により、業務の範囲を売るだけから広げていけばよいのではないかと。農作物だけでなく、福祉施設の食材や加工品を流通に乗せることもできると思う。輝北は結束が固いので、みんなで異業種でやれば夢が広がると思うし、その中で1つずつ丁寧に解決策を練れば、面白い展開になってくると思う。

回答：地区公民館は集会施設なので、通年使うことは難しいが、イベントをするときに1～2週間前からチラシを作ってみんなに宣伝して使ってもらってもよい。特に地区公民館には調理室もあるので、そば等を作って出すのも良いのではないかと。

3 猿害などの有害鳥獣対策について

提案：当地域は猿やイノシシの農作物への被害が多発しているため、有害鳥獣を山に返す対策について、市の対策や自分たちでも出来る取組など、有効な施策を教えてください。

回答：猿害等については、30年～50年前からもあったかもしれないが、そんなに酷くなかった。近年地域から人がいなくなることで地域が荒廃し、柿やみかん等の実や残渣が残されることで、餌付けをしているような状況である。

どうすれば、共生していけるかだが、生きる世界を分ける手立ての一つが、防護柵である。資材の補助は100%出るので、要望を出してほしい。農地の交換などで農地集積して、大きく囲えばよいのではないかと。

また、イノシシや猿が食べない忌避作物で加工品をつくと、鳥獣害対策と加工品の製造が二つ同時に解決できるので挑戦していただきたい。利用組合を作ってグループでやれば補助もあるので、スプレーギクと併せて輝北ならではのものが出来ればよい。

鳥獣害対策は、環境対策、防護、捕獲の3つが基本である。猟友会と一緒にパトロールを行い、追い払いなどしてもらうことも可能であり、輝北でも百引の猟友会が実施している。

輝北地域の課題が何なのか考えてみてほしい。昔は猿等はいなかったのか。

提案：昔は輝北の岳野で、からいもを作っていた時期もあったぐらい猿は少なかった。今はとてもじゃないができない。

提案：猿についてはそんなにいなかったが、大隅湖のダム周辺の整備を図るということで、観光のために猿を増やそうとした時期があり、商工会が頑張っていた。結果として集客に結び付かなかったが、猿はそのままなので困っている。

回答：市の単独事業でもできることはあるので、こんなことをやればというアイデアがあれば教えてほしい。

提案：畑の周辺が荒れて藪が増えると、猿等が逃げ込むので、そういったところをきれいにする手はないか。環境を変えないと、いつまでも猿等が入ってくる。ミミズやカニもいるので、個人的には除草剤を使っている。ナフタリンや田んぼの殺虫剤を使うのも良いかもしれない。みんながやるために行政で手助けはないか。

回答：畑の周辺の道路の藪払いが、1回の除草で10年もてばよいが、実際のところ年に3～4回は除草が必要である。昔はシートを設置した場所もある。

私の実家も農家であるが、農家は草との戦いである。個人の田畑の草刈りを公共で行うことは難しい。機械がないという事であれば、組合を作って機械を貸すことはできるかもしれない。

提案：もちろん自分の土地は自分で草刈りを行うが、よそに住んでいる人の田畑まで管理はできない。そういう土地に対し公共でどうにかできないか。

回答：環境整備は大事なので、実験的に一部のエリアで実施することは可能性はあるが、鹿屋市全域となると難しい。

回答：レンタカウというのがある。これは牛を借りてきて放牧し、草が生えるのを防ぐ方法である。是非検討してほしい。

実際に、南大隅町の大泊でやっており、牛を放牧して鳥獣被害対策や耕作放棄地対策を行っている。

4 降灰対策事業の条件緩和及び市道清掃等の降灰対策について

提案：本地域ではスプレーギク等が特産であり、降灰対策事業においてハウスなどへの補助を受けているが、サツマイモなどの育苗ハウスについては降灰対策事業が使えないと聞いている。サツマイモの苗等の産地化を検討している農家もあることから降灰対策事業の条件緩和が出来ないものかお聞きしたい。

また、降灰は農作物の運搬や児童の通学、輝北地域の環境へ悪影響を及ぼしている。特に県道においてはロードスイーパーが動いているが、通学路や狭い市道については、清掃が行き届いていないという状況である。8月中旬ごろに南日本新聞で鹿児島市のロードスイーパーが休んでいるという記事が載っていたと思うが、休んでいるのであれば、鹿児島市のロードスイーパーを借用して活用できないか。

回答：元々育苗は、ハウスやトンネルで行っており、降灰対策以前に、灰が降ろうが降るまいが育苗しているので、今のところ降灰対策事業の対象とされていない。ただ、国の方も降灰対策事業については、段々と基準の条件緩和の方向にあるので、今後要望していく。

これとは別に、育苗施設については県単の農村域活性化事業がある。これ以外に、市の単独事業もある。皆さんがグループで育苗施設を作りたいというのであれば、あくまでも組合方式だが、そういった事業で作ってもらえればよいと思う。実際、紅はるかの組合施設はそれでやっており、県単独が3分の1、市が6分の1、合わせて2分の1の補助があるので、相談してもらえると可能性があると思う。

市道の降灰対策だが、市では残念ながら清掃作業車を持っていない。しかし、降灰があった場合、清掃車をお互い融通し合おうと、国、県、市町村で作っている連絡調整会議がある。降灰は、時期によって降る地域が限られるので、他の地域で使用しないような時は清掃車を借用できないか連絡調整会議でお願いしてみたい。また、清掃車の借用料や人件費など、来年度の予算化を検討していきたい。

清掃を頻繁に行うのは無理だが、降灰がひどい時だけでもピンポイントで出来るような仕組みを作っていきたい。

5 ファーマーズマーケットの開催について

提案：アメリカに1年間行ってきたが、こちらで何か生かせるものはないかと考えていた。アメリカには、ファーマーズマーケットというものがある。民家の駐車場などを利用して、月1回でも半年に1回でもいいので、農家の生産者が自分たちの作ったものを直接お客さんに販売することをお祭りのように開催すれば、お客さんの興味を引くし自分たちのまちのPRにもなると思う。

回答：素晴らしい話だと思う。輝北の総合支所では、地域づくりのための予算が500万円ほどあるので、今言われたような企画を総合支所に持ち込んでもらえば、十分検討できると思う。是非そういうのをどんどんやって、このまちのファンを増やしたり、この地域に埋もれているものをいろんな人に紹介してほしい。

6 キラキラ館及び輝北地域の今後の展望について

提案：キラキラ館では、役員の定例会を毎月1回、イベントを年に4回程度実施している。イベントには保育園の太鼓やバンドに参加してもらうなど、いろいろ試行錯誤でやっている。

キラキラ館はどこに向かうのか。輝北では、高齢化、過疎化、限界集落、買い物過疎化が進んでいる。福祉センターのお弁当配達は、日曜以外ほとんど毎日回っていると聞いている。

キラキラ館単独では駄目なので、買い物サービスをやりつつ、お客さんにも野菜などをキラキラ館に出荷してもらい現金をとる喜びを味わってもらいたい。結局のところ、分散した農家の生産者の人たちは、生産は出来ても、出荷する手段がない状況である。そこをコラボさせ、集配をして野菜をキラキラ館に持って来る仕組みを作れないかと考えている。

同様に、今、古江の漁協から、魚を持って来て野菜を持って帰りたいという要望がきており、試験的に実施している。

キラキラ館は輝北でも核となる最高の場所にあると思っているが、ギリギリの人数でやっており、これから自力でやっていくには、いろんな制限もあって、将来的には福祉など官民共同でやるような形でしていく必要がある。また、ファミリーマートとキラキラ館で日用品はほとんど揃うので、それを配達、そして野菜等を集荷すると、そういうリレーが出来たらよい。

回答：輝北地域の花の栽培と、畜産農家の高齢者の皆さんを1年でも2年でも長くやる気にさせるためには、どうしたらいいか、何か意見があれば聞かせてほしい。

提案：花の値段は震災前までは良かったが、震災後は盆正月でないと安いので、そういった時期に出荷出来るように調整している。キラキラ館へは市場に出せないようなものを出荷しており、非常に助かっているが、時期によって出荷に波があるため、あるときとない時の差が激しい。

また、油の高騰もあり、冬場の栽培は採算が合わないとまではいかないものの厳しい状況である。農業公社に1期生が入ったころは、1農家、2反5畝ほどで純収入2,000万円ほど上げたこともあった。

今は、実際のところ花の栽培も厳しいので、農協から野菜を作らないかという話があったりする。すると、研修生から私たちは地元を捨ててまできたのに、農協がそんなことをいうのは何事かという意見が総会のときに出るなど、厳しい状況である。

回答：花の単価が落ちてきたということで危惧をされていると思う。3年くらい前にスプレーギクを曾於と輝北でブランド化されたが、経営的に厳しいと思う。今後いろいろと探っていく必要があると思うので、またいろいろな知恵を頂きたい。次に、畜産農家の方からお話を伺いたい。

提案：畜産業は、自分自身が元気な時は飼養できるが、夫婦のどちらかが病気になり一人になると辞めていく。機械に頼れば何とかなるが、儲けが少なくなる。若くても、えさやりにぼろ出しなど1人では限度がある。高齢者にヘルパーなど応援する人を付けてもらえたら続けられるのではないか。

(ぼろ出し：養豚や養牛等で、糞と尿とを畜舎内でできるだけ分離し、床に残った糞を畜舎外に搬出する作業。)

回答：肝付町では、高齢者の農家のぼろ出しを1回ワンコイン 500 円で農業公社が受託してやっており、非常に助かっているということであった。高齢者の畜産農家に1年でも2年でも長く続けてもらうために何を助けてあげればよいのか探る必要がある。高齢者は技術があっても管理が難しいので、大きな施策だけでなく細かい部分にも目を向けていくべきである。若い畜産農家の方はどうか。

提案：私ではないが、ある経営者の夢で、廃校となった百引中学校の校舎を高齢者の入れる施設にし、グラウンドには牛舎を立て、自分が具合の悪い時は、他の入所者や従業員にみてもらいながら、自分の好きな牛を飼えるといったようなことはできないか話をしていた。

回答：廃校となった学校の利活用については、地元の意見をまず優先しているが、早くしないと施設の老朽化も進むので、そろそろ市の方でアイデアを募集するなり検討する時期に来ているのではないかと考えている。

提案：旧百引中を地区公民館にして、今の地区公民館をキラキラ館にということもお願いしたらどうか。

回答：地元の皆さんの意見も出してもらい、1校でも活用方法が決まればと思っている。